

令和2年度岩手県農政審議会 会議録

日時 令和3年2月12日(金) 14:00~17:00
場所 岩手県産業会館7階 大ホール

1 開会

2 あいさつ

伊藤啓治技監兼農村整備担当技監があいさつを述べた。

3 委員紹介

今泉元伸農業振興課担い手対策課長が委員を紹介した。

4 議事

会長及び副会長の選任について

会長に小野寺敬作委員が、副会長に鈴木重男委員がそれぞれ選任された。

5 部会員の指名について

事務局が部会委員の名簿を配付した。

各部会開催につき一時中断

6 報告事項

(1) 部会長及び副部会長の選任結果について

今泉元伸農業振興課担い手対策課長が、各部会の部会長及び副部会長の選任結果について説明。

農政部会：部会長 杉原永康委員、副部会長 佐々木祐子委員

農地部会：部会長 小田島峰雄委員、副部会長 福士好子委員

生産流通部会：部会長 八重樫徹委員、副部会長 塚本知玄委員

(2) 岩手県果樹農業振興計画及び岩手県酪農・肉牛生産近代化計画について

八重樫徹生産流通部会長が、資料1により審議結果を報告。

佐々木誠二農産園芸課総括課長が、資料1-1、資料1-2、資料1-3により、米谷仁畜産課総括課長が、資料2-1、資料2-2、資料2-3により説明。

【質問・意見等】

○高野寛子委員

果樹農業振興計画についてお伺いする。

主要品目の生産目標について、リンゴの栽培面積の目標は減少しているが、省力化技術による生産性の向上などにより、生産量目標は増加するというのは理解できる。

資料の「主な取組項目」の1に園地情報データベースを活用した園地の集積・集約による規模拡大という文章があるが、果たして規模拡大という言葉は必要なのかと思う。園地の集積・集約でいいのではないかと思うが、お伺いする。

○佐々木誠二農産園芸課総括課長

「現状・課題」の項目の本県の果樹経営体の状況について、2ヘクタール未満と2ヘクタール以上に分けて記載しており、シェアは圧倒的に2ヘクタール未満の経営体が多いが、経営体の合計が減少してきている中で、2ヘクタール以上の農家が占める割合が増加してきている結果となっている。

高野委員が言われたとおり、規模拡大という部分は難しい面もあるが、こうした構造の流れ等を勘案して、計画としては規模の拡大、集約を図るよう設定したものであり、御理解をお願いします。

(3) 令和3年度農業・農村関係予算のポイント等について

中村善光農業振興課総括課長が、資料3により説明。

【質問・意見等】

○佐藤崇史委員

雪害対策について、具体的な支援内容として、果樹の枝折れ等の被害に対してはどのような支援策が予定されているのか、お示しいただきたいと思う。

また、水田フル活用について、すでに作付計画が始まっており、今から変えるのは至難のわざだが、そこを変えていくわけで、例えば昨年度の作付面積の転作分の面積から増加しなければならないなどの規定があるか。

また、昨年度も米余りは問題となっており、実際に20%とか30%も転作をしている経営体があり、さらに増加させるといのはかなり厳しい状況である。その辺も加味した施策を推進していただきたいので、よろしく願います。

○佐々木誠二農産園芸課総括課長

果樹については、資料にはございませんが、国の対策事業があり、枝折れに対する補強や改植への助成もあるので、詳細については、問合せいただきたい。

水田フル活用については、今回県の予算で措置した部分は、新規に取り組む部分ということで整理をしている。そのため、昨年度から新たに増えた部分ということで整理しているので、御理解いただきたい。

一方で、新規に取り組む部分について、なかなか難しいという部分もあり、そうしたところについては産地交付金等を使いながら、あるいは主食用米等の販売拡大、そうした取組を進めながら、できる限り支援していきたいと考えている。

○藤代克彦農政担当技監兼県産米戦略室長

水田フル活用について、補足する。

新型コロナウイルス感染症の影響で、当初牛肉価格の低下や、あるいは花が売れないというような影響があったが、米は家庭内需要が堅調で、何とか消費できていたというような図式だったが、やはり新型コロナウイルス感染症の影響が長期化しており、外食の機会が減り、米の消費が伸びず、在庫が増えている。そうすると、需給が緩和して、米の値段が今じりじりと下がり基調になっている。

そのため、そこを何とか下支えする意味で、来年の生産量を抑制しないと、来年生産した米が大きく値下がりしてしまうのではないかと懸念があるので、全国的に取り組んでいかなければならない。

米の生産者の皆様にとっては、これまでも随分と努力をされて、難しいということも重々分かるのだが、米の生産を増やしていくことができないという状況が全国的な需給

状況なので、新たに取り組む分について予算を準備して、皆様に御協力いただきながら取り組んでいく必要があると考えているところなので、よろしく願います。

○杉原永康委員

先ほどの農政部会で、農地集積 80%を目標とし、県南地域では農地集積 85%が目標であったが、片方では米は作って駄目だと。なるべく別な作物を作ってくださいというような話のようだが、県としては米はあまり作ってほしくないなという方向なのか。

また、先日、岩手日報を見ていたが、来年度の予算で農業関係の記載が全くなかった。「農業普及」も廃刊となり、情報発信がないので、現場に情報が届いていない。どうやって情報発信するのか。どのようにお考えか。

○藤代克彦農政担当技監兼県産米戦略室長

農業経営基盤強化促進事業の目標の農地集積 80%と米の作付転換について、県では「銀河のしずく」「金色の風」というオリジナル品種をデビューさせて、国の新しい制度の大きな流れの中でも、全国の消費者から支持をいただければ、岩手県の米として量、価格形成でやっていけるという実績を積み上げてきたところ。

しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で需給構造が大きく変わり、全国的に米が余っている中で、岩手県が独り勝ちするというような図式が見いだせない状況であり、生産量の抑制はやむを得ないと考えている。

農地集積については、生産量にリンクする部分はあるが、生産者の高齢化、減少が進む中で、効率的な農地の活用を考えた際に、農地集積は進めていかざるを得ないと思っている。

その中で、米を生産しないでくださいというよりは、水田をフルに活用してより収益性の高い農業を実践していただきたい。それぞれの経営体や産地でそういった組み合わせを考えていただきながら進めていく、そこを県が応援していきたいと考えている。

また、情報発信について、雑誌の「農業普及」を昨年まで発行していたが、全国的にそのような情報誌を発行している都道府県が5県程度しかなく、また、購読者も減少してきたこともあり、やむを得ず廃止したところ。

生産者に情報が行き届かないという御指摘は何度かいただいている。これについては、振興局を通じて座談会などいろいろな機会を捉えて、今回の大雪対策事業の情報などを発信したい。ただ、ホームページやSNSでの発信はしているが、情報を皆様に均等に届けるというのは難しい時代でもあるので、それぞれ御自分から県にお声がけいただければ、非常にありがたいと思っている。

委員の皆様におかれましては、そういったお声を聞いた際には、県への問い合わせを進めていただければ、地域の普及センター、振興局を通じて情報をお届けに参りますので、よろしく願います。

○杉原永康委員

農政部会の際に「農業を希望する若い方々が少なくなってきた。もっと農業の魅力や、農業は楽しいという情報を発信したらどうか」という意見があった。

農業の魅力をぜひ情報発信していただいて、岩手の農業を盛り上げて、前向きに考えていただければと思う。よろしく願います。

○福士好子委員

モーモープロジェクトについて、ヨーグルトなどを消費者の方に配る感じの事業か。

お願いとなるが、子供たちの給食に牛肉を提供してもらいたい。やはり今は肥育農家が大変なときで、できれば子供たちとその若い親御さん世代に牛肉を食べてもらって、味をしっかりと舌に刻んでもらって、牛肉はオレイン酸なので、老化を防ぐというような謳い文句が皆さんに響くのかなと思う。

今買ってくれている年代は、割とお年の方のほうが多いように思うが、量そんなに食べなくても、おいしいものを食べたいという部分で選ばれていると思う。

やはり生産している岩手県としては、小さい頃から、これはおいしい、これはホルスの肉、これは和牛、これ短角だくらいまでは分かっていたらと非常にありがたいので、願います。

また、大雪被害について、教育現場である農大のハウスも潰れたので、その復旧も願います。

○高橋真博流通課流通改善担当課長

モーモープロジェクトについて回答する。

現在、県内のヨーグルトメーカーが中心となって企画している、全国ヨーグルトサミットについて、県でも予算を措置して、この開催の経費の一部を支援する形で考えている。

具体的には、9月に実施予定で、最近ではオリンピックなども自身のSNSで岩手のヨーグルトはおいしいと発信いただいております、非常に注目が高まっているということで、それを全国的に情報発信していきたいということを考えている。消費者の皆様には1本ずつ配るとのことまでは考えていないが、このようなイベントの支援を考えている。

また、学校給食については、今年度、新型コロナウイルス感染症の関係もあり、国の事業も活用して県内の小中学校の学校給食に、年間3～4回ほど無償で牛肉を提供する事業を実施した。子供たちもふだん食べているものとは違い、地元の牛肉ということもあり、非常に好評だったと伺っている。今年度は緊急的に措置したが、来年度については状況によって活用を考えていかなければいけないと考えている。

また、先ほどオレイン酸の話も出ていたが、おいしさの数値化というところで、現在、県と農業団体等で構成している協議会で、この数値化のためのデータを取っており、おいしさにどう影響しているのかを研究しているところ。

モーモープロジェクトではないが、来年度、別の事業で主婦向けの料理教室などで牛肉の魅力やおいしさを分かりやすく伝えていく活動なども計画しているところもあり、その中で取り組んでいければと考えている。

○小原繁農業普及技術課総括課長

農業大学の教育施設につきまして、昨年末の大雪により、本科では水稻育苗ハウスの倒壊、研修科では野菜の雨よけハウスの倒壊があり、甚大な被害と認識している。

農業者の被害にはよく触れられるが、農業大学校について御心配いただき、ありがとうございます。

これらの被害の復旧に向けては、現在予算の確保に向けて取組を進めているところで、令和3年4月以降の研修に大きな影響がないよう、完全復旧というところまでは難しいかもしれないが、何とか間に合わせるようにしていきたいと思っている。

学生たちも一生懸命やりますので、引き続き応援をいただきたいと思う。あ

りがとうございます。

○菅原紋子委員

先ほど杉原委員からもPRをしてほしいというお話があったが、そのPRの部分で御提案する。

私は、いろいろな会議に出席させていただいているが、「農山漁村で輝く女性部会」の報告会が先日あり、その際にもお話ししたが、農業に対するイメージがどうしてもマイナスなイメージの3Kになってしまう。

ぜひ、岩手の新プラスの3Kということで、いいイメージの3Kを作って、PRしていきたいと考えているので、よろしく願います。

また、農業高校の皆さんとお話しさせていただく機会があり、農業に対するいいイメージと悪いイメージの事前アンケートを書いていたところ、いいイメージもあるが、悪いイメージが、やはり収入面のほうであった。高校生の時点であまりいいイメージを持っていないということは、この先も多分あまりいいイメージを持っていかないとと思うので、その前の時点で小学校、中学校や、幼稚園、保育園のあたりから、農業に対して、当たり前にあるのだよというところをぜひPRする場や、事業、支援、そういったところで協力していただければと思っている。

○中村善光農業振興課総括課長

私もその会議に出席したが、確かに農業のイメージは、きつい、汚いなどいろいろあるようだ。それを払拭するような新しいイメージをこれから持って、発信していかなければならないというのはそのとおりで、その会議では、新3Kとして例えばカッコいい、感動がある、稼げるなどいろいろお話ししたが、いずれ若い人が本当にやってみたい、あるいはここに住んでみたいと思えるような、農業、農村社会のイメージを、施策を進める側も農家の方も一緒になって発信していくということが大事だと思っている。

これからもいろいろと御意見をいただければと思う。

○藤代克彦農政担当技監兼県産米戦略室長

若干補足させていただく。

畜産のほうでは、家畜共進会というのがあるのだが、葛巻町の出品者で、非常にファッションナブルでおしゃれな方がいらっしゃり、会場の中で非常に目立ってた。この中でもJA青年協の佐藤さんや、菅原さん、高野さんのように若い方に、まずは目を引くような辺りからも発信していただけると、収入のほうもついてくるかと思うので、若い子たちにも農業に対していいイメージや、魅力を感じてくれるのではないかと思う。

県としても可能な限りの支援をするが、そういった部分でも御協力いただければありがたい。

○鈴木重男委員

藤代農政担当技監から葛巻の若い酪農家のお話があったが、ホルスタインショウを見たことをきっかけに酪農家になったという酪農後継者はかなり多い。資質、能力の高い牛を育てたい、共進会で引っ張ってみたい、そういう魅力を感じて酪農家になった若い酪農後継者も多いので、ぜひ共進会等に対しても今後とも県の御理解を賜りたいと思う。

質問になるが、資料3の予算のポイントの「いわてワインヒルズ推進事業」について、全国トップレベルの産地形成を推進するということに対しては大いに賛成できる。しか

しながら、これまで岩手のワイン、長い間厳しい環境の中で取り組んできた既存のワイナリーもあるので、こういったワイナリーに対して不利益になることのないよう、今後の推進を図っていただきたい。

また、今ワインは全国で岩手は4番か5番になっているはずだが、岩手らしい方向性、目標をしっかりと立てながら、分かりやすく示していただきたい。

現状で理解できるようなものではないと思っているので、今後も県の明確な方向を示していただきながら、本当の意味でのトップレベルの産地になるように推進をしていただきたい。

○佐々木誠二農産園芸課総括課長

いわてワインヒルズ推進事業について、いろいろ御意見等ありがとうございます。決して既存のワイナリーの皆様に御迷惑をかけるというようなことはございません。

私も以前久慈で勤めていたときに、ヤマブドウの生産者とくずまきワインへ大変お世話になった経験がある。ヤマブドウは県の特徴的なブドウと認識している。また、大迫にはキャンベルがある。そうした岩手らしいワインの醸造、生産といったものを目指して、今後とも進めていきたいと思うので、引き続き御理解、御指導をお願いします。

○鈴木重男委員

分かりました。まず、岩手で一番生産量の多い品種はキャンベルであり、これは大先輩であるエーデルワインの力だと思えますし、ヤマブドウに関しては、県も推進したが、そのままの状況になっており、その後、配慮されていないヤマブドウもある。これらにしっかり配慮した計画を立て、推進していただきたいと思う。

7 その他

【質問・意見等】

○黒田大介委員

仕事柄いろいろな会議の委員を務めているが、結構オンライン化している。農政審議会は、基本的にこのようにリアルでやっていくのか、場合によってはオンラインもお考えになっていらっしゃるのかというところを確認したい。

○藤代克彦農政担当技監兼県産米戦略室長

そのときのコロナの状況や、審議案件によると考えている。

今回開催した判断は、県内で幾らか感染者の確認は続いているが、一定の対策を取れば開催できると判断したもの。

例えば県内での感染者が非常に危惧されるような状況で、審議案件があった場合にはオンラインでの開催も考えなければならぬと考えている。

今回の判断とすれば、感染予防対策を取った上で開催したもの。

○小野寺敬作部会長

先ほど環境の話があったが、今全世界でSDGsに取り組んでおり、環境に対しては私たち一人一人が取り組んでいく必要があるので、よろしく願います。

8 閉会